

研究課題	神社資料を活用した日本天台仏教史（近世・近代）に関する研究 —平成 27 年度助成研究「神仏共生」に関する総合的研究の継続的發展として—
研究代表者	木村 周誠 (仏教学部 仏教学科 准教授)

1. 研究目的

(1) 戸隠神社および院坊の文献調査

- ①久山家管理、及び戸隠神社管理の歴史資料
- ②極意家管理の歴史資料
- ③院坊文書の研究

2. 研究方法

上記区分に即し、

- (1) ① 資料貸借による調査・撮影（スキャニング含む）・整理・保存作業
- ② 同上
- ③ 研究過程における成果報告

3. 研究成果と公表

上記(1) -①に関しては、資料の全貌を把握し、かつ保存状態が心配される久山家文書について、所蔵者の許可を得て大正大学に資料を貸借した。その上で、業者による燻蒸処置をおこなった。資料が長年の高湿度により脆弱化しており、取り扱うと崩壊の危険があったこと、今後の保存のために腐敗を防ぐ目的であった。結果として、予想以上の安定化を達成できた。

その上で、中性紙保存封筒に番号を付し資料を長期保存に堪えうる状況まで整理した。その過程で、ScanSnap、および一眼レフデジタルカメラによる悉皆撮影をおこなった。画像作成は、今後の目録作成、及び翻刻作業に必要不可欠だからである。しかし、当初見積もった以上に資料撮影作業が難航した。まず、燻蒸によって資料の状態が安定したことにより、開封不可能と目されていた束になっている一括文書が開封可能になったためである。資料は関係するもの同士や近代に入ってから整理により一括にされているものがほとんどである。それが1束あたり50点から100点近くを抱合しており、さらに全てが一紙文書であるため撮影作業が遅々として進まないという問題に直面した。また、燻蒸で乾燥・安定したとは言え資料は非常にデリケートであり、紙同士の癒着がおきているためそれらを剥がす作業は誰にでも出来るわけではない。何より作業の安全性を重視した結果、未だに相当数の資料が未撮影となり次年度を迎えることとなっている。

また、現在では神社関係者にすら顧みられることのない戦前の内務省による調査（嘱託：小林健三 [広島文理科大学→玉川大学]) に関して、その調査報告書および調査カードの存在が確認されているが、これらカードのスキャニングはその全てを完了している。

今後の方針としては、早急に残りの撮影を継続して、所蔵者への資料返却を実現することを喫緊の課題としている。

(1) -②については、戸隠神社宿坊家である極意家の資料調査を計画していたが、(1) -①の作業が予想以上に難航したために当該年度では調査などを見送った。多方面に作業を広げるよりは、一つずつ資料群を整理、撮影した方がよいと判断したためである。むろん戸隠山の信仰を研究する上で重要な資料であることには間違いない。久山家資料の作業に目星が付いた状況で、改めて着手する予定である。

(1) -③に関して、本研究において確認した新資料については、平成二十八年度天台宗教学学会（H28年11月11・12日開催）において、協力者である中川仁喜が「慶長年間の戸隠山別当について ―久山家文書の新出史料紹介―」の口頭発表を行った。近世初期の戸隠山別当で不明瞭であった部分を補完し、かつ関東天台宗寺院との関係を明確にすることができる貴重な資料を学術の場に提示することができた。随時、研究論文として活字化を進める予定である。

現在、これらの資料に関する整理・翻刻・研究は緒についたばかりであるが、最終的には目録化し、考察を加えた調査報告書を作成し本学の機関リポジトリ等で公開する予定である。